

# ホンモロコ天然卵からの親魚養成とその採卵

氏家 宗二・岡本 晴夫・片岡 佳孝

## 1. 目的

県では、近年著しく激減したホンモロコ資源の回復を目的に、平成18年度から天然水域から採集したホンモロコ卵を用い、種苗生産用親魚の確保と卵や稚魚の大量生産を行い、それらを効率的に琵琶湖へ放流する事業を実施している。水産試験場では事業実施に必要な天然卵からの親魚養成(F0)と水産振興協会が実施する大量種苗生産用親魚(F1)に必要な発眼卵の供給を実施した。

## 2. 方法

### 1) 親魚養成

#### ①天然卵の採集

平成27年4月27日から5月26日の間に琵琶湖北湖の近江八幡市西の湖と大津市小野地先および長浜市海老江地先で、柳の根や藻等に付着したホンモロコ卵を約60,000粒採集した。なお、採集にあたっては遺伝的多様性を確保するため、採集場所と採集回数を多くすることとした。

#### ②ふ化、飼育管理

採集卵は湿った状態でポリ瓶に入れて水産試験場に搬入し、エアレーションを施した30L水槽に収容した。ふ化後は仔魚数を計数した後、外池40㎡3面に放養し、培養ワムシと培養ミジンコおよびアユ餌付け餌料を適宜給餌した。

### 2) 経年魚からの採卵

平成24～26年度に生産した天然魚を由来とする親魚(3+～1+年魚)からの採卵を4月15日～4月20日と4月30日～5月4日に実施した。採卵は水面に浮かべた人工基体に自然産卵したものを回収した。

## 3. 結果

1) 天然卵の採集と稚仔魚生産結果を次表に示した。

琵琶湖北湖3ヶ所で採集した天然卵約60,000粒から、17,800尾のふ化仔魚を得た。池出し約5ヶ月後の生産尾数は約16,000尾(平均体重約2.0g)で、ふ化仔魚からの平均生残率は約90%であった。7A-4号池および7A-5号池では、池放養前にコイ、フナ仔魚を選別後放養したが、5ヶ月後のモロコ体型測定時にも選別もれの全長約10～15cmのコイ4尾とフナ35尾が混入していた。

平成27年度ホンモロコ天然卵の採集と稚仔魚生産結果

採集月日	採集場所	採集卵数(粒)	池放養月日	池番号	仔魚放養尾数	備考
4月27日	近江八幡市西の湖	約20,000	5月8日	7A-4	約3,000	コイ、フナ卵混入あり
4月30日	近江八幡市西の湖	約10,000	5月12日	7A-5	4,400	フナ卵混入あり
5月8日	近江八幡市西の湖	約20,000	5月20日	7A-6	6,800	
5月11日	大津市 小野地先	約8,000	5月20日	7A-6	2,500	
5月26日	長浜市海老江地先	約2,000	6月11日	7A-6	1,080	

2) 経年魚からの採卵および発眼卵の供給産卵誘発のため、飼育用水を採卵一ヶ月前に琵琶湖水(10～11℃)から地下水(15～16℃)に切り替えた。その結果、ほぼ計画どおりの採卵が可能であった。

得られた卵は約5日間、1ト水槽に収容して発眼させた後、3,164,000粒を水産振興協会に供給した。また、伊庭内湖での放流試験に751,000粒を提供した。